

## 交流セッション1：現任教育において実践者と教育者をつなぐ

プランナー：上別府 圭子・山崎 あけみ

東京大学大学院医学系研究科

看護者の働く場では、その施設の特性を考慮して工夫された現任教育プログラムの取り組みがなされている。一方で、看護学生を育てる側の教員研修（ファカルティ・デベロップメント：FD）の中心的な課題として、授業方法等の改善に取り組む必要性も唱えられている。家族への看護は、看護の基礎教育において必須であると指定規則に定められた科目ではないこと、また、患者個人への看護以上に高度な実践力が必要とされることから、多くの看護者は、学生時代だけでなく現場に出てから学びを深めることが多い。

家族看護についての研修の場が、実践者にとって役立つ時間となり、またその研修を担当する教育者にとってFDの1つになることが期待されるだろう。そこでこの交流セッションでは、実践者と教育者がともに学びあえるような家族看護についての現任教育のあり方を考えたい。

ファシリテーター 上別府圭子

### I. 静岡県立静岡がんセンター 4年目以上の研修会「家族看護学」から考える

水主いづみ 静岡県立静岡がんセンター 副看護部長 教育担当

静岡県立静岡がんセンターで働く中堅クラスの実践者は、家族看護についてどのような研修を期待しているのか、なにを学びたいのだろうか。

- ・静岡県立静岡がんセンターで働く看護者の背景・当院の現任教育プログラム全体像・「平成19年度家族看護学研修」の評価（実践者の立場から）

山崎あけみ

昨年度に、実施した4年目以上の研修会「家族看護学」を振り返りながら、研修では、家族看護における何について理解を促そうとしたのだろうか。

- ・集合型研修で家族看護を教授するときの工夫・教材づくりや受講者とのやりとりの方法についての工夫・「平成19年度家族看護学研修」の評価（教育者の立場から）

### II. 埼玉県立大学における緩和ケア認定看護師養成プログラムから考える

松村ちづか 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科

埼玉県立大学での認定看護師プログラムにおいて、現場の看護師が6ヶ月間認定看護師養成プログラムで、自分が実践してきた家族への看護を振り返りながら、どのように学びを得るのだろうか。

- ・受講生の家族看護に関する事前学習ニーズ（困っていた場面）・緩和ケア認定看護師の特化技術としての家族看護（プログラムの提示）・受講生のニーズ・課題に応じた教育内容の変遷

古池きよみ 群馬県公立藤岡総合病院 緩和ケア認定看護師

埼玉県立大学での認定看護師プログラムにおいて、現場の看護師が6ヶ月間認定看護師養成プログラムの中で、家族看護の視点がどのように変化したのだろうか。

- ・家族看護で学びたかったこと・緩和ケア認定看護師教育課程で得られた視点・今後の課題